

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・世界史探究	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説 世界史」山川出版 副教材:「グローバルワイド最新世界史図表」第一学習社 「世界史重要語句チェックリスト」啓隆社 「30テーマ 世界史問題集」山川出版社

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	観察 ノート提出	10%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図や表などにまとめたりしている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	近世ヨーロッパ世界の形成と展開	ルネサンス・宗教改革・主権国家体制の成立を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質を理解する。	○		○	○
			近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ諸国の世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	○	○		
			欧米における近代国民国家の発展	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解する。	○			○
			第1回考査		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	アジア諸地域の動揺	世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とそこでの日本の位置づけを理解する。	○	○		○
			帝国主義とアジアの民族運動	科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察する。		○	○	
			二つの世界大戦	総力戦としての二つの世界大戦、ソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解し、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察する。	○	○		○
				第2回考査		○	○	○
後期	10 11 12	35	冷戦と第三世界の自立	冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解し、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察する。		○		○
			現在の世界	市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解し、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察する。	○		○	
				実践問題演習に取り組む。		○		○
				第3回考査		○		○
	1 2	20	全範囲の総復習を行う。	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。	○	○		○
				第4回考査は行わない				
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・世界史B	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説 世界史」山川出版 副教材:「ウィニングコンパス世界史の整理と演習」東京法令出版社 「30テーマ 世界史問題集」山川出版社

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	観察	10%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図や表などにまとめたりしている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 小テスト ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	先史の世界 オリエントと地中海世界	人類は自然環境に適応しながら諸文明を築き上げ、それらをもとに地域世界を形成したことを把握し、西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア・地中海世界の形成過程を理解する。	○		○	
			アジア・アメリカの古代文明 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	南アジア・東南アジアの地理的特質、インダス文明や南アジア文化の発展、東南アジアの国家形成に触れ、それらの世界の形成過程を理解する。東・内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家、唐帝国と東アジア文化圏に触れ、東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握する。		○	○	
			イスラーム世界の形成と発展	アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。	○		○	○
			ヨーロッパ世界の形成と発展	西ヨーロッパ封建社会の成立と変動と、東ヨーロッパの動向に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を理解する。		○	○	
			第1回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	内陸アジア世界・東アジア世界の展開 アジア諸地域の繁栄	内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシア諸地域世界の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を理解する。イスラーム諸帝国、東南アジア海域の動向、明・清帝国とアジア諸国の関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特徴を理解する。	○		○	
			近代ヨーロッパ世界の形成と発展	ルネサンス・宗教改革・主権国家体制の成立を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特徴を理解する。		○	○	
			近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ諸国の世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特徴とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	○		○	○
			欧米における近代国民国家の発展	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解する。		○	○	
			アジア諸地域の動揺	世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特徴とそこでの日本の位置づけを理解する。			○	○
				第2回考査		○	○	
後期	10 11 12	35	帝国主義とアジアの民族運動	科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特徴について考察する。	○	○	○	
			二つの世界大戦	総力戦としての二つの世界大戦、ソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特徴について考察する。	○		○	○
			冷戦と第三世界の自立 現代の世界	戦後の国際政治と冷戦構造について理解し、現代社会における国際問題や民族紛争の原因について、歴史的背景を理解する。		○	○	
				第3回考査			○	○
	1 2	20	全範囲の総復習を行う。	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。		○	○	○
				第4回考査は行わない				
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・日本史探究	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説日本史B」(山川出版社) 副教材:「新詳日本史」(浜島書店) 「日本史重要語句チェックリスト」(啓隆社) 「ゼミナール日本史」(浜島書店) 日本史用語集(山川出版社)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、日本の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
c. 資料活用の技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図や表などにまとめたりしている。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
d. 知識・理解	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業プリント作業 定期考査 小テスト 提出物	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期	4	32	近世社会の展開	17世紀、伝統的権威である朝廷、寺社勢力や大名勢力、農民など庶民に対する統制を強化する一方、対外関係の統制も確立する過程を考察できる。 幕府政治が武断政治から文治政治へと転換する中、体制が安定するとともに一般町人や有力百姓をも担い手とする元禄文化成立の背景を考察できる。		○		○	
	5		近世社会の動揺	18世紀、農業・商業・手工業の発展に伴う社会変動や飢饉などの自然災害に対応できず、幕藩体制が動揺していく過程を考察できる。	○		○	○	
	6		開国と明治維新	日米和親条約・日米修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できる。 廃藩置県・徴兵制度・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できる。	○	○		○	
			立憲国家の成立	近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことが理解できる。また、言論による抵抗に移行する要因を考察できる。 国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえることができる。 国会開設要求の運動などにみられる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察できる。また、憲法の特色などを通じて戦前の立憲制の仕組みが理解できる。	○		○	○	
				第1回考査(6月)			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	
前期	7	32	立憲国家の成立	<p>条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を年表や地図から考察できる。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景になった点を理解できる。</p> <p>日露戦争が国家の総力を結集して戦われた点を考察できる。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立を刺激した反面、韓国併合などが近隣諸国の受け止め方への変化に繋がったことを考察できる。</p> <p>殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連付けて考察できる。</p>	○		○		
	8		第一次世界大戦と日本	<p>劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鋇毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できる。</p> <p>国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できる。</p> <p>大戦景気に着目して資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できる。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目して政党の役割と動向について考察できる。</p> <p>ヴェルサイユ体制からワシントン体制にいたる経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できる。</p> <p>学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化のかかわりと浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できる。</p>	○		○		
	9			第2回考査(9月)			○	○	
後期	11	32	昭和の恐慌と満州事変	<p>戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解できる。</p> <p>満州事変から国際連盟の脱退にいたる日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できる。</p>	○		○	○	
			第二次世界大戦と日本	<p>中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など様々な角度から考察できる。</p> <p>連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジア諸国に損害を与えたことや日本も原爆投下など空前の戦禍を被ったことに着目できる。</p>	○		○	○	
			占領下の日本	<p>主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を国民生活の状況も踏まえて考察できる。</p> <p>サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できる。</p>	○		○	○	
	12	経済繁栄と保守長期政権	<p>保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生にいたるまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できる。</p> <p>現代の世界と日本</p> <p>冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取り上げて考察できる。</p>	○		○	○		
	1	20	全範囲の総復習を行う。	<p>大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。</p> <p>第4回考査は行わない</p>			○	○	○
	2								
【その他】									

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・日本史B	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「詳説日本史」(山川出版社) 副教材:「新詳日本史」(浜島書店) 「ゼミナール日本史」(浜島書店) 「日本史重要語句チェックリスト」(啓隆社) 日本史用語集(山川出版社)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	授業態度 提出物	10%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、日本の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
c. 資料活用の技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図や表などにまとめたりしている。	授業プリント作業 定期考査 提出物	30%
d. 知識・理解	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	授業プリント作業 定期考査 小テスト 提出物	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	32	日本文化のあけぼの	日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができる。	○		○	○
	小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料に基づき国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できる。				○		○	
	5		古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できる。	○		○	○	
	中国及び高句麗・新羅・百済など朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教など大陸文化の受容を踏まえヤマト政権の成立についてとらえることができる。			○		○		
6	律令国家の形成	推古朝の政権運営や飛鳥文化の形成について仏教の受容や遣隋使などの大陸との交流を踏まえて考察できる。	○		○	○		
			平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて考察できる。		○		○	
			第1回考査(6月)		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	
前期	7	32	貴族政治と国風文化	文献資料を基に藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる公地公民の崩れなど、土地制度の変容を関連付けて考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
				盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				藤原氏北家が権力を掌握していく過程を理解し律令体制の変容の観点から摂関政治を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
	8		中世社会の成立	国際関係の変化や遣唐使の中止などを踏まえ浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文字の成立による国文学の発達に着目して貴族の生活・文化を理解できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				文献資料を活用し国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
				武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				延久の荘園整理令により荘園公領制が明確化されたことを踏まえて院政の政治構造や経済・社会・文化を理解できる。			<input type="radio"/>		
9		源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などに着目することができる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
		蒙古襲来、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				
			第2回考査(9月)		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
後期	10		武家社会の成長	鎌倉仏教の多様な動き、社会的・思想的な意義やその影響について考察できる。この時代の文学・絵巻物・彫刻の特徴に着目できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構確立について理解できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して応仁の乱に代表される室町幕府の動揺や衰退を考察できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
				南北朝・北山・東山文化を通じて武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生花などを例にとり理解できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	11		幕藩体制の確立	富国強兵策を推進して領国統治を強化した戦国大名、堺や博多など都市の発展を踏まえて戦後国の日本の多様性を考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
				鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	12		近世社会の展開	幕藩体制との繋がりに着目し、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できる。				<input type="radio"/>	
				17世紀、伝統的権威である朝廷、寺社勢力や大名勢力、農民など庶民に対する統制を強化する一方、対外関係の統制も確立する過程を考察できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	12		近世社会の動揺	幕府政治が武断政治から文治政治へと転換する中、体制が安定するとともに一般町人や有力百姓をも担い手とする元禄文化成立の背景を考察できる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				18世紀、農業・商業・手工業の発展に伴う社会変動や飢饉などの自然災害に対応できず、幕藩体制が動揺していく過程を考察できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
			第3回考査(12月)		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	1	20	全範囲の総復習	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
				第4回考査は行わない					
【その他】									

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・地理探究	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「新詳地理B」帝国書院、「詳解現代地図」二宮書店 副教材:「新編地理資料2022」東京法令出版 「2022データブックオブ・ザ・ワールド」二宮書店 「2023年入試ベストセレクション大学入学共通テスト地理B重要問題集」実教出版

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	観察 ノート提出	10%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査 ノート提出 作業プリント	30%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	人口	人口転換論や日本の人口動態について理解する。また、日本と他国との比較を通して日本の課題を浮き彫りにし、その解決に必要な取り組みは何かを議論する。	○			○
			生活文化、民族・宗教	世界の衣食住、人種、宗教、紛争について、それぞれどのような場所で見られ、どのような背景があるのかについて理解する。また、なぜそのような現象が生じるのかについて、主体となる人々への共感的理解などを踏まえて考察する。		○		○
			地域区分と各地域の考察方法	地誌分野の学習の見通しを立てるとともに、現在の世界の各地域に対する認識を確認する。	○		○	
			東アジア	東アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			東南アジア	東南アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			南アジア	南アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
第1回考査					○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	西・中央アジア	西・中央アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			アフリカ	アフリカの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			ヨーロッパ	ヨーロッパの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。また、EUという地域共同体の成立や課題について理解し、これから先のEUがどうなるかについて議論し、評価する。		○		○
				第2回考査	○	○	○	○
後期	10 11 12		アングロアメリカ	アングロアメリカの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			ラテンアメリカ	ラテンアメリカの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			オセアニア	オセアニアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			ロシア	ロシアの地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
				第3回考査	○	○	○	○
	1 2	20	全範囲の総復習	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。 第4回考査は行わない。	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	地理歴史・地理B	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:「新詳地理B」帝国書院、「詳解現代地図」二宮書店 副教材:「新編地理資料2022」東京法令出版 「2022データブックオブ・ザ・ワールド」二宮書店 「2023年入試ベストセレクション大学入学共通テスト地理B重要問題集」実教出版

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	観察 ノート提出	10%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 ノート提出	30%
c. 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	定期考査 ノート提出 作業プリント	30%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ノート提出	30%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	第3次産業	第3次産業のうち、交通・通信、観光についての概要を理解する。また、そこで理解したことを用いて、技術の進歩や観光業の発達が、我々の生活や地域の在り方についてどのような影響を与えるのかについて考察する。		○		○
			人口	人口転換論や日本の人口動態について理解する。また、日本と他国との比較を通して日本の課題を浮き彫りにし、その解決に必要な取組みは何かを議論する。	○			○
			村落・都市	人々の生活空間としての村落や都市の形成過程や、立地傾向に関連する自然・社会条件を理解する。また、都市の発展に伴う様々な社会現象の理解を通して、事象の多面性を捉えられるようにする。		○		○
			生活文化、民族・宗教	世界の衣食住、人種、宗教、紛争について、それぞれどのような場所でみられ、どのような背景があるのかについて理解する。また、なぜそのような現象が生じるのかについて、主体となる人々への共感的理解などを踏まえて考察する。		○		○
			国家・領土問題	国家の枠組みについて理解する。また、国家の領域を巡って生じる領土問題について、その背景や解決の難しさなどの理解を通して、我々が領土問題にどう向き合っていくべきなのかについて議論する。	○			○
				第1回考査	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	地域区分と各地域の考察方法	地誌分野の学習の見通しを立てるとともに、現在の世界の各地域に対する認識を確認する。	○		○	
			東アジア	東アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			東南アジア	東南アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			南アジア	南アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			西・中央アジア	西・中央アジアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			アフリカ	アフリカの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
				第2回考査	○	○	○	○
後期	10 11 12	35	ヨーロッパ	ヨーロッパの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。また、EUという地域共同体の成立や課題について理解し、これから先のEUがどうなるかについて議論し、評価する。		○		○
			アングロアメリカ	アングロアメリカの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			ラテンアメリカ	ラテンアメリカの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			オセアニア	オセアニアの国々の地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
			ロシア	ロシアの地域的特色(自然、歴史的背景、民族、産業など)について考察・理解する。			○	○
				第3回考査	○	○	○	○
	1 2	20	全範囲の総復習	大学入試を見据えて過去問題に取り組み、内容を理解する。 第4回考査は行わない。	○	○	○	○
【その他】								